

【p 48～p 53】 どこんじょうだいこんの大ちゃん

1 資料活用にあたって

- 長文のため、挿絵を拡大コピーし、紙芝居にして話の筋を理解させると良い。
- 本資料は、大ちゃんを通して生活や自然の中での生命の力を感じさせることが中心になる。したがって中学校の内容項目で扱う生命倫理や生命の連続性にまで踏み込まなくてもよい。

2 資料の読み方のポイント

- 主人公の変化を問う資料ではなく、主人公（さやか）を通して生命を大切にする心について考える資料であり、さやかの立場で場面を捉えていく。（子どもがさやかになって考えられるように発問を工夫する。）

3 読み物資料の素材について

【参考URL】

- ・ 道の駅あいおい白龍城
<http://peironjo.jp/>
- ・ 新聞記事等
<http://www.geocities.jp/daruma001jp/dokondaikon.html>
- ど根性大根について
 - ・ 2005年（平成17年）8月、兵庫県相生市那波野の歩道で、大根がアスファルト路面を突き抜けて頭を出しているのが見つかった。その後、脇には「この大根を優しく見守りましょう」の立て札も立てられた。
 - ・ この大根は「ど根性大根」の大ちゃんとして人気を集めた。11月に上半分が折られ行方不明となったが、間もなく戻され、相生市役所で水耕栽培された。
 - ・ 弱ってきた大ちゃんは、翌年の2月に宝塚市の医農薬研究会社で「コピー大根」を作るための“手術”を受け、バイオ栽培によって再生された。
 - ・ 今は、相生市の畑で大ちゃんの子孫が元気に育てられ、相生白龍城の青空市場や相生農協等で売られている。
- 関連情報
 - ・ このど根性大根の大ちゃんをモチーフにした絵本「がんばれ大ちゃん」が、当時相生市役所に勤めていた宮崎あゆみさんによって出版された。その後、「もっと！がんばれ大ちゃん」も出版されている。
 - ・ ど根性大根の発見場所には、路面から伸びようとする姿と「ど根性大根『大ちゃん』」の文字を白黒二色でデザインした「アート舗装」と呼ばれる特殊なアスファルト舗装がされている。また、市役所や道の駅あいおい白龍城にも大ちゃんの姿が描かれている。
 - ・ 両足で踏ん張る「大ちゃん」を型押ししたクッキーも発売されている。

4 展開の具体例

どこんじょうだいこんの大ちゃん

- ・主 題 名 ・命を大切にする心 D (17)
- ・資料の概要 ・道路を突き破り生えている大根に「大ちゃん」と名づけたさやかは、たくましく育つその様子に勇気を与えられ、成長をあたたかく見守る。ある日、根元から折られた様子を見つけたさやかは悲しみに沈む。しばらく立って元の場所に戻されたしおれた「大ちゃん」の様子を見て心配するさやかであったが、市役所のおじさんから「大ちゃん」の元気を取り戻し、生命を増やす計画を教えてもらい、笑顔で「大ちゃん」を励ます。
- ・ね ら い ・市役所のおじさんから「大ちゃん」再生の計画の話聞いて、笑顔で「大ちゃん、がんばれ」と励ますさやかを通して、生命を大切にしようとする道徳的心情を育てる。
- ・展開の具体例

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・今日の資料に興味を持つ。	副読本P48の写真(大ちゃん)を見ましょう。
展 開	・資料の範読を聞きながら黙読をする。	
	・ゆうじと相談して立て札をおいた時の主人公の気持ちを考える。	立て札を大ちゃんのそばにおきながら、さやかはどんなことを思っていたのでしょうか。 ・みんな、大ちゃんを踏まないでね。 ・大ちゃんは生きているんだよ。 ・私を励ましてくれた大ちゃんを大切に育てたいな。
	・大ちゃんが折られ、悲しむ主人公の気持ちを考える。	大ちゃんが折られてしまっで見あたらず、目からなみだがあふれるさやかは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・大ちゃん、どこに行っちゃったの？ ・大ちゃん、死んじゃったのかな。 ・大ちゃん、痛かっただろうね。かわいそうに…。
	・元の場所に戻された大ちゃんを見ている主人公の気持ちを考える。	すっかりしおれてしまった大ちゃんを見たさやかは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・戻ってきたけれど、大ちゃん、だいじょうぶかなあ。 ・また、元気になるかなあ。 ・大ちゃん、死んじやいやだよ。
	・市役所のおじさんの話を聞き、につこりする主人公の気持ちを考える。	ゆうじと顔を見合わせて、につこりするさやかは、どんなことを考えていたのでしょうか。 ・大ちゃんが元気になるんだって、よかったね。 ・大ちゃんががんばれ！ ・だいちゃんの子どもがいっぱいできるんだって、楽しみだね。 ・おじさん、大ちゃんの命を助けてくれてありがとう。
終 末	・感じたことを発表する。	感じたことを発表しましょう。

大ちゃんを見るたびに励ましてくれているような気がしていた主人公は、大ちゃんを「生きている仲間」と感じていることをおさえる。

大ちゃんが折られ、命が奪われたように感じて悲しむ主人公の心に共感させる。

元の場所に戻されたが、すっかりしおれてしまった大ちゃんを見て、大ちゃんの命を心配する主人公の心を考えさせる。

市役所のおじさんの話がきっかけとなり、大ちゃんの生命の力や共に生きている愛おしさを感じている主人公の心情の高まりをおさえる。